



低線量の放射線を全身に照射した場合は10年後生存率が50%から84%上昇。

坂本澄彦東北大学名誉教授は、高線量放射線の局所照射では治すことが難しい悪性リンパ腫の患者に低線量放射線を全身に照射する臨床治療を行った。この時使われた低線量放射線は、1回当たり0.1グレイ、1回おきに計15回、1.5グレイの総線量だった。臨床の結果、高線量放射線の局所照射のみの場合の10年生存率が50%であったのに対し、高線量放射線の局所照射のみならず低線量放射線の全身照射を併用した場合の10年生存率は84%であった。

坂本教授自身、癌に罹り1回0.15グレイの放射線を週2回5週間、計1.5グレイの総線量の放射線を照射することで癌の再発を抑えることに成功した。